

二〇二〇年度 高校推薦入試 作文問題

次の文章は、「女性とキャリア 学生の本音は」というタイトルの新聞記事です。これを読んで後の問いに答えなさい。

将来は管理職になりたいか、子どもを持った後も働き続けたいか——。女性の社会進出をめぐる大学生の意識を知りたいと、明治学院大（東京都港区）社会学部の学生が、同じ大学生らにアンケートをした。その回答からは、現代の若者ならではの考え方や、男女の価値観の違いが浮かび上がった。

■「家事は女性が」男性29%・女性48%

昨年11月中旬。明治学院大白金キャンパスの一室に、社会学部の3年生十数人が集まっていた。教室前方のスクリーンには、大学生を対象に実施した調査の結果や具体的な回答がずらりと映し出されている。

「将来子どもがほしいか」という質問に全体の9割近くが「はい」と回答。でも「いいえ」もある。男子学生が「意外！子どもって欲しいものじゃないの？」。すると女子学生が「（配偶者と）2人の時間を大事にしたい人もいるんじゃない？」。結果を前に、会話はつきない。

調査をしたのは、明石留美子教授（社会福祉学）ゼミの3年生。社会福祉がテーマのゼミで、今年度の前半は、家事のため学校に行けない現状や早婚など、途上国の少女たちの状況を学んだ。後半では「国内にも身近な女性差別があるのでは」という疑問から「女性の社会進出や就労に関する大学生の意識を調べる」ということになった。

アンケートの質問内容は学生を中心に考え、昨年10月下旬、大学生を対象にインターネット上で実施した。明治学院大生を中心に男性45人、女性100人から回答を得た。

「子どもを持った後も働き続けたいか」という質問に男性は98%、女性は72%が「はい」と回答。そして「結婚後女性が家事を担うべきだと思うか」との問いに「思う」と答えたのは男性が29%、女性は48%だった。

■「強迫観念、実は女性の方に？」

現代らしい回答は育児取得についてだ。男性が93%、女性の98%が「利用したい」と答え、男女ともに育児への関心の高まりを感じさせた。

管理職についても尋ねた。「将来管理職になりたいか」という問いに「はい」と答えたのは男性59%、女性42%。

結果を分析した学生たちも、考え方はそれぞれ違う。「女性自身が、女性が家事をすべきだと考えていることに驚いた」と加藤恵里奈さん（21）。「実は、女性自身が強迫観念を持ってしまっているのではないか」

「自分は、子どもは家で世話したい。もし妻が働きたいと言いつつ経済的に問題ないなら、自分が仕事を辞めてもいい」と塚平一視さん（21）が言うと、教室から「おお」という声。塚平さんは「世間とずれていても、自分の信念があればそれでいいと思う」と話す。

ゼミの中でも、将来管理職になりたいと考える女子学生は数人だった。その一人、石沢野乃実さん（21）は「社会で認められたいから」。でも「結婚はマストじゃない。結婚しないと私の人生が成り立たない、なんてことはないでしょ？」。

調査の結果や分析した内容は、12月に開かれた学内学会で発表。「中小企業にも女性活躍を推進してもらおう」「男女の給料格差を無くして性別役割分業を解消する」ことなどを提言した。

指導してきた明石教授によると、1月のゼミのまとめで、学生が「出産などどうしても性別役割を超えられないこともあるが、男女が互いに気遣うことができる社会にすべきだ」「上の年代の人の意識を変えるのは難しいが、私たちの世代から変わっていく」と話していたことが印象的だったという。

明石教授は「社会福祉は高齢者や障害者への支援だけではない。社会の中でチェンジメーカーになるんだという気持ちを少し芽生えさせることができたのではないか」と話す。（円山史）

（『朝日新聞 2019年1月29日朝刊』より）

問 まだかなり先のことですが、将来社会に出た後の自分の生き方について、あなたはどのようにしたい、あるいはなりたいたと考えていますか。結婚、子ども、働き方など、本文で話題となっている事柄を参考に、具体的な理由とともに考えをまとめなさい。（六〇〇〜八〇〇字・六〇分 題名などは書かずに一行目から本文を書くこと）